

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 516

事業名	一斉清掃補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	市民生活部	生活環境課		款	衛生費・4款
電話	0799 - 43 - 5024			項	保健衛生費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	環境美化対策費・6目	
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_			
	まちづくりの目標	子どもを産みたい_育てたいまち(子育て)			
	施策目標	ゴミのない清潔感あふれる安らぎの住環境をつくる			
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託	負担金補助	

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 市内連合自治会203団体及び小・中・高等学校、老人会等		対象人数(人) 18,182
	目的	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 市内全域において、美化意識の向上を図るとともに、清掃活動の維持と支援を行う。		
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 国道、県道及び各地区主要市道や主要河川、港湾・海岸、公園、寺社、ゲートボール場、公会堂等の周辺を自治会を中心とした地域住民の手により、夏と秋の年2回清掃を行う。		
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 淡路島公園島憲章の趣旨に基づき、地域住民が協力して公共施設等の清掃を行うことで、環境美化に対する意識の向上と、地域コミュニティーの再構築を目的として事業が続けられてきた。		
	事業実施主体	<input type="checkbox"/> 市直営 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他 (自治会)		
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし		
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 旧南淡町の一部の地域では、毎月1回実施。			

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	年間実施回数	指標単位 回			
	指標説明 (指標算出方法等)	市内での一斉清掃実施回数				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	2	2	2	2	
	実績値	2	2	2		
	達成度 (%)	100.0	100.0	100.0		-
目標値設定の考え方	前年度の実施回数					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	実施割合	指標単位 %			
	指標説明 (指標算出方法等)	予定回数 ÷ 実施回数 × 100				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	100	100	100	100	
	実績値	100	100	100		
	達成度 (%)	100.0	100.0	100.0		-
目標値設定の考え方						
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	直接事業費 (千円)	4,911	4,829	4,836	4,369	
	一斉清掃補助金	4,911	4,829	4,836	4,369	
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他			300	300	
	一般財源[A]	4,911	4,829	4,536	4,069	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0	
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1	
	事業量1(事業に要した日数)					
事業量2(事業に要した人数)						
年間経費([A]+[B])	4,911	4,829	4,536	4,069		
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	0.3	0.3	0.2	0.2		
受益者人数(18,182)1人当り経費(千円)	0.3	0.3	0.2	0.2		
経費に関する補足説明	平成19年4月末現在自治会当り・夏と秋2回で@10,000円+1世帯75円×2回=150円、自治会は203、世帯数は18,171、緑支部のみゴミの回収運搬を80千円支払い。					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

達成度	活動結果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		%	100.0	100.0	100.0	-	
(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 計画どおり実施されている。							自己評価 (5点評価)
							3
有効性	成果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		%	100.0	100.0	100.0	-	
	成果向上率	%	-	0.0	0.0	-	
(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 啓発効果については、十分な成果が見られる。							自己評価 (5点評価)
							3
効率性	活動実績1単位当り経費	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		千円	2,455.5	2,414.5	2,268.0	-	
	効率性増減率	%	-	1.7	6.1	-	
(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 一斉清掃により、市民の環境美化意識の向上と、不法投棄防止が図られる。							自己評価 (5点評価)
							3
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低			
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 不法投棄の防止及びポイ捨て防止のための市民意識向上に寄与する目的は十分に発揮している。						
							3
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>評価グラフ</p> </div>				
	行事参加することにより、環境美化意識及びポイ捨て等の防止意識の向上が図られる。						

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>ゴミのない清潔感あふれる安らぎの住環境をつくるため、今後も、事業を継続する必要があるが、補助基準等を市内で統一するとともに、地域の自主性を育てるためにも補助はできるだけ最小限にしていく必要がある。</p>	<p>市民等が自主的に運動を展開し、地域の環境美化を推進していくことが望まれる。</p>
(現状維持以外の改善方法)	<p>補助金について自治会均等割を8千円とし、また、緑地区ゴミ収集に係る補助金80千円を廃止し、他地区と同様の委託料とする。</p>	
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
	補助金の削減となる。	
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>平成2年度にスタートした淡路全島一斉清掃は平成21年度には20周年という節目を迎えて、近い将来には1回の清掃に切り替える時期にきている。尚、南あわじ市連合自治会との話し合いが絶対必要です。それにより補助金の削減が図れます。事業を中止する場合は、現在1年に2回清掃ボランティアに市民が出ることがゴミのポイ捨て禁止の啓発に繋がっている、雑(たが)が緩むと市民のポイ捨てが増えると考えられる。</p>	